

令和4年度 学校自己評価書（山本小学校）

4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

区分	No.	観 点	具体的手立て及び評価の視点	学校評価		自己評価結果の考察・分析 (○成果 ●課題及び対策)
				観点	総合	
学校全体として	1	教育目標や教育方針の発信	教育目標や教育方針等を十分に伝えている。	3	3	○学校便りやHPを通して、保護者や地域に教育目標や方針を伝えることができた。 ●コロナにより参観日等が中止になり説明する機会が不足した。今後は、中止になることも想定した対応を考慮する。
	2	必要な情報発信	いろいろな文書等により学校全体に関わる連絡事項をよく伝えている。	3	4	○学校からの文書、安心安全メール、学校便りやHPなどを通じて、学校行事や各種会議の情報を伝えることができた。 ○今年度は、学校評価を安心安全メールを活用して行ったが、回答が早く回答率も高かった。
	3	いじめ防止	いじめの早期発見、定期的なアンケート、面談等などを通して、いじめ防止に取り組んでいる。	3	6	○毎月のアンケート、必要に応じた教育相談、年間2回全児童を対象に教育相談を行い、いじめの早期発見に努めた。 ○気になる事例については、全職員で共通理解を図るとともに、家庭と連携しながら問題の解決を図ってきた。
	4	教育環境の整備	学校の教育環境はよく整備されている。	3	5	○緑化環境においては、みどりの少年団活動を中心に、児童が中心となって、花いっぱい学校づくりができています。 ○校内環境づくりにおいては、全職員で整理整頓に心掛けるとともに、作品掲示なども工夫することができた。
	5	学校行事の内容や実施	学校行事は、内容や実施時期等、適切に実施されている。	3	7	○これまでの反省に基づいて、実施時期や実施方法などを工夫することにより、各行事がスムーズに実施できた。
	6	新型コロナに対応した教育活動	新型コロナウイルス感染症予防に対応した教育活動（学校行事等）の工夫ができています。	3	6	○運動会の午前中開催など、新型コロナウイルス感染症状況に対応しながら学校行事を運営することができた。 ○音楽室の机にフェンスシールドを置いたり、同じ向きで歌わないなどの工夫により、感染防止を図ることができた。
確かな学力の定着	7	わかる・できる授業づくり	「わかった、できた」と言える授業を実施している	3	4	○教材研究を十分に行い、児童にとって分かりやすい授業づくりを目指し、全職員で取り組んできた。 ●少人数の特性を生かした指導の工夫改善及び個に応じた指導の充実をさらに図っていく必要がある。
	8	家庭学習の充実	授業と効果的に連動させた家庭学習を課し、児童の家庭学習の習慣づくりを行っている。	3	4	○授業で理解した内容の定着化を図るため、プリント問題やドリル等を活用し、学習内容の定着を図ってきた。 ●家庭学習の習慣が十分に身に付いていない児童に対しては、保護者と連携した家庭学習の習慣づくりが必要である。
	9	読解力向上	読解力が身に付くよう、授業研究会や研修の成果を生かし、授業の工夫・改善に努めている。	3	4	○読解力を高めるための授業在り方について、年間を通して研修会を重ねながら、実践的な取組を行ってきた。 ●さらに研修を重ね、どの児童にも確実に読解力の向上を図ることができる手立ての構築が必要である。
	10	ICTの活用	児童のICTに関するスキルを高めたり、ICTを活用して学習意欲を高めたりすることにより、理解力や思考力を深めている。	3	6	○校内研修やICT支援員の配置により、教師及び児童のスキルが高まり、授業での活用の場が大きく増えた。 ●学校と家庭を結んでのオンライン授業ができるまでには、教師と児童のスキルがまだ十分ではない。
	11	読書活動の推進	児童が読書に親しむための働きかけを効果的にを行い、読書活動の推進を図っている。	3	5	○図書支援員からの働きかけや読書フェスティバルの開催などにより、児童の読書量が昨年度より大幅に伸びた。 ●読書量に個人差が見られるため、読書活動推進のための働きかけを学校と家庭とが連携して行っていく必要がある。
	12	作文指導の充実	新聞や広報誌等への積極的な投稿などにより、児童の書く力の向上を図っている。	3	6	○宮日新聞への投稿や地域広報誌による紹介により、作文が紹介される機会が増え、児童の書く意欲が高まった。 ●全員が掲載されるわけではないので、学級での作文の発表の機会や学級通信などでの紹介の場を充実させる必要がある。
豊かな心の育成	13	基本的な生活習慣の確立	「山本小学校当り前のこと3か条」の指導を中心に基本的な生活週間の定着が家庭でも図れている。	2	7	○履き物をそろえるはよくできているが、元気のよいあいさつや返事には、個人差が見られ、まだ改善の余地がある。 ●基本的な生活習慣づくりにおいては、学校と家庭とがより連携して取り組んでいく必要がある。
	14	命を大切にしている態度の育成	児童に命を大切にしようとする心や態度を育成している。	3	4	○「SOSの出し方」の授業や命に関する動画視聴を全学年で行うことで、命を大切にしている態度の育成を図ってきた。 ○「山本小学校ならではの命を守るためのしおり」を学校と保護者及び地域が連携して作成・活用することができた。
	15	思いやりの心の育成	人との関わりを大切にするなど、思いやりの心を育んでいる。	3	4	○「心の週間」を毎月設定し、言われて嬉しかった言葉を校内放送で紹介し合うなどして、思いやりの心を育んできた。 ○「人に親切にしよう」という月目標のもと、人権の授業を全学年で実施するなど、思いやりの大切さを学ばせた。
	16	自己肯定感の育成	教育活動全般を通じて、児童の自己肯定感の育成を図っている。	3	3	○学習や生活において、児童を称賛する場を重視し、一人一人が自分のよさに気付くことができるようしてきた。 ●コロナ禍で保護者と直接話す機会が減少しがちで、家庭と連携した取組が不十分だった。
	17	安全・防災教育の充実	安全教育及び防災教育の充実を図ることにより、「自分の命は自分で守る」態度を育成している。	3	5	○火災や水害、不審者対応などの避難訓練や交通安全などを通して、自分の命は自分で守る態度を育てることができた。 ●家庭や地域においても自分の命は自分で守る態度が身に付くよう、保護者や地域との連携をさらに図る必要がある。
	18	郷土愛・地域貢献	ふるさと川南を愛し、地域に貢献できる児童を育成している。	3	3	○3年生の地域学習や6年生の「ザ・山6フェスティバル」など、地域を知り、地域貢献を図る学習が展開できた。 ●コロナの影響で地域での行事が中止になることが多く、児童が参加したくても地域行事へ参加できないケースも多かった。
健やかな体力の育成	19	体力向上	体育や運動会、持久走記録会などを通して、児童の体力を高めている。	3	6	○運動会や持久走記録会に向けた練習などを通して、児童の体力を高めることを目指した取組ができた。 ●体力テストでは全国平均を超える種目も多かったが、平均値を下回るものについては、強化を図っていく必要がある。
	20	体育学習の充実	体育学習の指導の充実により、運動に楽しく取り組む態度を身に付けさせている。	3	6	○多様な運動に取り組む環境が整備されており、計画に従って多くの運動に楽しく取り組ませることができた。 ●昼休みなどに積極的に体を動かすことを好まない児童も見られるため、できるだけ外遊びの奨励を図る必要がある。
	21	健康教育の充実	健康教育の充実により、健康についての望ましい態度や習慣を育成している。	3	1	○歯磨き指導や性に関する授業などに養護教諭も関わり、児童の健康づくりの意識を高めることができた。
	22	食育の充実	給食指導など、食に関する指導の充実を図っている。	3	6	○毎日の校内放送で、給食の食材や栄養素、川南産の食材を紹介し、食育指導の充実を図ってきた。 ○「味覚の授業」で外部講師を招いた授業ができた。今後は、町栄養教諭を招いての食育指導も取り入れていく。
	23	新型コロナ感染対策	保護者と連携し、新型コロナ感染予防のための対策をとっている。	3	7	○マスクの着用、手洗いや消毒、換気の徹底を図ってきた結果、校内でのクラスター発生等を防ぐことができた。 ○必要に応じてコロナの感染状況を知らせたり、保護者との連絡や相談に迅速に対応したりするようしてきた。